
“文学少女”と科学と魔術とSOS団が交差する決闘者たち

朱鳳鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

“文学少女”と科学と魔術とSOS団が交差する決闘者たち

【Nコード】

N4902V

【作者名】

朱鳳鈴

【あらすじ】

とりあえず、いろいろ出してみた・・・どうなるか？そんなの知りません。

第1章 文学少女チーム結成（前書き）

かなり昔の作品です。心して読むように

第1章 文学少女チーム結成

僕、井上心葉いのうえのこはは今日もいるも道理に妖怪の天野遠子先輩あまのとおこに三題噺を書いている。はずだが、・・・。

心葉「僕はターンエンドです。」

遠子「私のターンよ、ドロー。」

何でこんなことを僕たちがしているかというと、これは、30分前のこと。遠子先輩が遅くやってきたことが、始まりだった。

心葉「遠子先輩今日は遅いなあー。」

って僕は何を言っているんだ。別に遠子先輩をまたなくてもいいじゃないか。もうかえってもいいじゃないんか？

心葉「あーもう！後5分したらかえってやろっ、そして明日ものすごい三題噺を書いてやる。」

そして遠子先輩は、ぴったし5分後にきた。

遠子「ごめんなさい、心葉君遅れてきて。」

心葉「いえ、後1秒したら、かえるつもりでしたし。」

遠子「ひどーい、心葉君先輩にたいしての心使いがなってないこととするなんて、信じられないわ。」

といていつもの席で、いつも道理にパイプいすの上に、体育座りで本を読んで・・・

心葉「いや、僕がなぜ、妖怪に対して心使いをしないといけないのでしょうか？」

遠子「ほんとにひどーい、心葉君それに私は妖怪じゃないわよ。私は、本が食べたいほど好きなただの文学少女なのよ。」

といて、本のページを千切り口へ入れて・・・

遠子「うーん、おいしいわ。やっぱ今の季節は、タゴールの詩に限るわね。」

食べる妖怪なのだ。

まあ、妖怪というとききみたいにいってくるんだけど。

心葉「今日は遅かったですなぜですか？」

遠子「そうそう、今日ねー、廊下でこんな紙を見つけたのよ。」

といて僕に紙を1枚見せてきた。

心葉「えーと、全国DM選手大会ですか？」

遠子「そう、今はやっている、デュエルモンスターズなのよ心葉君。」

心葉「それがどうしたんですか？」

遠子「出るのよ。この大会に！」

心葉「そうですか、かんばってください。」

僕は適当に答えて、遠子先輩の三題噺を書く準備をしていた。

遠子「何いつてるの、心葉君も出るのよ？」

僕は、一瞬遠子先輩の言ったことが理解できなかった・・・。

心葉「ちよつと持ってください。なんでぼくがでないといけないですか？」

遠子「だってここ見て、最低5人最高8人までで参加するようにって書いているんだもん。」

僕は、もう1度だけ読んでみた。そしてそこにはこう書いていた。
出場校は最低5人から8人まで
学校の部活で出るものよし、適当に作ったチームでもよしとする。
さらに年齢制限はなしとする。

優勝チームには、KCより100万円が寄付される。

主催者KC社長とインダストリアルスチーム社長
と・・・。

心葉「出れないじゃないですか。これ。」

遠子「出れるわよもう4人も集まっているもん。後は心葉君が出てくれたらいいのよ。」

心葉「………。わかりました、そこまで言うなら……。」

遠子「わかってくれたんだ！。ありがとう心葉く……。」

心葉「僕に勝てたら、出ましょう。」

遠子「えっ？」

心葉「DMで僕に勝てたら、大会に、出ましようっていったんです。何か問題でも。」

遠子「そういうことね、分っていたわよ。そのくらい……。びっくりしたわ。」

心葉「何か言いました？」

遠子「いえ、何でもないわ。さっさとはじめましょう。心葉君。」

心葉「そうですか、それではデュエルです。」

天野 遠子 VS 井上 心葉

LP4000 VS LP4000

心葉「僕のター……。」

遠子「ちょっと待って心葉君。」

心葉「何ですか？」

遠子「レディーファーストって言葉知ってるわよね。」

心葉「え．．はい、わかりました。先行は譲ります。」

遠子「そうわよね。それじゃ、私のターン、ドローよ。」

私は『熟練の黒魔術師』を攻撃表示で召喚よ。」

熟練の黒魔術師	闇属性	魔法使い	ATK	1900	DEF
1700	効果モンスター				

遠子「『熟練の魔術師』の効果は、自分か相手が、魔法カードを使うたびに、魔力カウンターを1つ乗せる。そして、3つ乗ったこのモンスターをリリースすることで、デッキ・墓地・手札のどれから『ブラック・マジシャン』を特殊召喚できるのよ。
そして私は魔法カード『天使の施し』を発動するわ。」

心葉「それ禁止カードですけど。」

遠子「いえ、今大会では、いろいろと禁止、制限が変わるらしいわ。」

心葉「そうですか。」

（てことは、今、遠子先輩のデッキには、元禁止カードが入っていると考えたほうがいいのか。それってめちゃくちゃふりじゃないか。）

心葉「今、すぐやめましょう。遠子先輩。」

遠子「だめよ、男の子がそんなこといっちゃ、男じゃないわよ。」

いつもながら、むちななことをいいますね、この人はでも、

心葉「わかりました。いいでしょう、てか、いいハンデです。いつも僕が勝ってますから。」

遠子「そんなこといつているもの今のうちよ。えっと今このカード発動途中だったわよね。」

心葉「はいそうです。」

遠子「それじゃ効果により3枚ドロ、このカードとこのカードを捨てるわ。さらに『熟練の黒魔術師』に魔力カウンターが乗るわ。」

捨てたカード・・・ブラック・マジシャン、神聖魔導王 エンディミオン

魔力カウンター・・・熟練の黒魔術師（1個）

遠子「私はカードを1枚セットしてターンエンドよ。」手札4枚
LP4000

心葉「僕のターンですね。ドロ。」

僕は魔法カード『融合』発動です、手札の『E・HEROバーストレディ』と『E・HEROフェザーマン』を融合、『E・HEROフレイムウイングマン』を融合召喚します。」

バーストレディ 炎属 戦士 ATK 1200 DEF 80

0 通常モンスター

フェザーマン 風族 戦士 ATK 1000 DEF 100

0 通常モンスター

フレイムウイングマン 風族 戦士 ATK 2100 DEF

1200 融合/効果モンスター

遠子「その瞬間『黒魔術師』に魔力カウンターが乗るわ。」

魔力カウンター・・・黒魔術師（２個）

心葉「そして、僕はこのままバトルフェイズに入ります。『フレイムウイングマン』で『黒魔術師』を攻撃します。“フレイムシュート”さらに、このモンスター破壊したモンスターの攻撃力分のダメージも受けてもらいます。」

フレイムウイングマン ATK2100 VS 黒魔術師 AT
K1900

遠子「リバーiscardオープンよ、速攻魔法『月の書』発動よ。この効果で、『フレイムウイングマン』を裏守備表示にしてもらうわ。さらに、『黒魔術師』に、魔力カウンターが乗るわ。」

魔力カウンター・・・黒魔術師（３個）

心葉「・・・僕は、カードを１枚セットしてターン終了です。」手札２枚 LP4000

遠子「私のターンね、ドローよ。」

私は、『黒魔術師』リリースして、デッキの『ブラック・マジシャン』を特殊召喚よ。」

ブラマジ ATK 2500 DEF 2100 闇族 魔法使い
通常モンスター

遠子「私は、モンスターをセットして『ブラック・マジシャン』で

セットモンスターに攻撃、“ブラックマジック”よ。」

ブラマジ ATK 2500 VS フレイムウイングマン D
EF 1200

遠子「『フレイムウイングマン』撃破よ。」

心葉「『フレイムウイングマン』が墓地に送られたとき、リバースカードオープントラップカード『ヒーローシグナル』発動します。この効果は戦闘で、モンスターが破壊されたとき発動し、デッキより『E・HERO』のレベル4以下のモンスター1体特殊召喚します。この効果により、『E・HEROフォレストマン』を表側守備表示で特殊召喚します。」

E・HERO フェレストマン 地属 戦士 ATK 1000
DEF 2000 効果モンスター

遠子「それじゃ私はメイン2でカードを1枚セットしてターン終了よ。」手札3枚 LP 4000

心葉「僕のターンです、ドロ。」

僕は、スタンバイフェイズ時に『フォレストマン』の効果を発動します。この効果で『融合』のカードを手札に加えます。

そして、『E・HERO エアーマン』を召喚、効果を発動です。効果は2つありますが、デッキから『HERO』の名のついたモンスター1体を手札に加えるほうを使い、デッキより、『E・HERO オーシャン』

を手札に加えます。さらに、『融合』を発動します。手札の『オーシャン』と場の『フォレストマン』を融合、僕の切り札、『E・HERO THEアース』を融合召喚です。」

エアーマン	風属	戦士	ATK	1800	DEF	1500
効果モンスター						
オーシャン	水属	戦士	ATK	1500	DEF	1200
効果モンスター						
ジ・アース	光属	戦士	ATK	2500	DEF	2000
合ノ効果モンスター						

心葉「僕は、『ジ・アース』の効果を発動します。このモンスターはこのモンスター以外の『E・HERO』と名のついたモンスターリリースすることでその数値分攻撃力にプラスします。よって、自分の場にいる『エアーマン』をリリースし、その攻撃力分アップします。」

ジ・アース ATK 2500 + 1800 = ATK 4300

心葉「僕は『ジ・アース』で『ブラマジ』を攻撃、“ジ・アースマグナ”。」

ジ・アース ATK 4300 VS ブラマジ ATK 2500
 遠子 LP 4000 - 1800 = 2200

心葉「『ブラマジ』撃破です。僕はそのままターンエンドです。」

手札2枚 LP 4000

遠子「私のターンね、ドロよ。」

（え・・・このカードは何でこのカードは入っているのかしらでもいまはこのカードしかないわね）

心葉「どうしたんですか。遠子先輩？」

遠子「いえなんでもないわ、カードを1枚セットして、手札より、魔法カード『手札抹殺』を発動よ。互いのプレイヤーは、手札をすべて捨てて、捨てた分だけドローできるわよ、私ここの2枚のカードをすてて2枚ドローよ。心葉君もそのカードを捨ててね。」

心葉「わかりました。2枚捨てて、2枚ドローしました。」

遠子が捨てたカード・・・・？と王立の魔法図書

心葉が捨てたカード・ブルーメンプラントとHEROフラッシュ

遠子「私は、今伏せたカードオープン、魔法カード『死者蘇生』を発動よ。このカードで蘇生させるモンスターは、・・・。」

心葉「『ブラマジ』か『エンディミオン』ですか？」

遠子「いいえ違うわ、私が蘇生させるモンスターは、『ラーの翼神竜』よ。」

心葉「・・・、それって本物ですか？」

遠子「本物よ、ほら、カードの裏が普通なもの。」

心葉「そうですね。」

（でもたしか、神のカード1年前にあった地震でなくなった、ってニユースでしていたような気がするのに、なんで遠子先輩が持っているんだ。）

心葉「でも、『ラーの翼神竜』は3体のいけにえが必要で、その数値で攻撃力と守備力が決まるモンスターのはずです。よって『ラー』の攻撃力、守備力は0のはずです。」

遠子「心葉君とも人が『ラーの翼神竜』の効果をお忘れているの？」

心葉「えっ。」

遠子「『ラーの翼神竜』には、そのほかにも、後2つの能力があるのよ。」

心葉「あっ！そ・・それでも攻撃力は足りません。」

遠子「『ラーの翼神竜』の第2の効果を発動、プレイヤーのライフポイントを1まで減らし、その数値を攻撃力守備力に加算する。さらに、自分フィールド上の表側攻撃表示モンスターをリリースすること、その攻撃力を加算する。この効果はダメージステップ中にも適用するわ。でもこの効果は、特殊召喚でないと発動しないわ。」

遠子 LP 2200 - 2199 LP 1

遠子「私は、モンスターを反転召喚『カードエクスクルーダー』このままバトルフェイズよ。」

ルーダー	地属性	魔法使い	星3	ATK	400	DEF
400	効果モンスター					

遠子「まず、『ルーダー』で攻撃よ、その瞬間リバーiscardオーブントラップカード『マジシャンズサークル』発動よ。」

心葉（え・・えー！）

遠子「この効果でお互いのプレイヤーは、ATK 2000以下の魔法使いモンスターを1体特殊召喚する。私は、ブラックマジシャン・ガールを特殊召喚よ。心葉君はモンスターは？」

心葉「ありません。」

負けたねこれは、これで大会いき確定か。とほほ。（泣）

遠子「ほんとデッキ確認しないといけないけどしないでおくわ。」

心葉「そうですか。」

遠子「モンスターが特殊召喚したため、巻き戻しが発生し、『ルーダー』の攻撃はやめて、『ガール』で『ジ・アース』に攻撃、『ガール』は互いの墓地にいる『ブラック・マジシャン』か『マジシャン・オブ・ブラックカオス』1体につき攻撃力が300ポイントアップするわ。よって、攻撃力は2600なるのよ、これで『ジ・アース』の攻撃力を超えてるわ。」

ブラック・マジシャンガール ATK 2600 VS E・HERO THE アース ATK 2500

心葉 LP 4000 - 100 = 3900

心葉（あーあ、また、遠子先輩についていけないといけないか）

遠子「心葉君準備はできてる。」

心葉「できるわけありません、てかしたくありません。」

遠子「『ラーの翼神竜』で心葉君に攻撃よ。ゴットブレイズキャノン。」

ラーの翼神竜 ATK 2199

遠子「ダメージステップ時に『ラーの翼神竜』の効果発動よ、自分のフィールド上の『ブラックマジシャンガール』と『カードエクスルーダー』をリリースして攻撃力アップよ。」

ラーの翼神竜 ATK 2199 + 2600 + 400 = ATK 51

心葉 LP3900-5199〓LP-1299

遠子「やったわ。」

心葉「わかりました、約束なので出ましよう、でも、あと3人て誰のことですか？」

遠子「えっ？」

心葉「えっ？ってなんですか？」

遠子「ええええ、ほらそんなことはどうでもいいのよ。」

心葉「よくありません、まさかとは思いますが、決まってないじゃないんですか？」

遠子「大丈夫よ、明日までにはどうにかなると思うわ。ということで心葉君も探してきてね。」

心葉「……。」

遠子「心葉君、おなかすいたわ。何か書いて。そうだね。お題は、遊戯王、青春、イチゴ大福ね。時間は50分よ。」

そのあとのことを、いうと僕の書いた小説を食べた。遠子先輩はのたれまわった

翌日、芥川（芥川 一詩〓あくたがわかずし）君を誘っておいた。そして放課後、遠子先輩がつれてきたのは、琴吹（琴吹 ななせ〓ことぶき ななせ）さんと竹田（竹田 千愛〓ただ ちあ）さん

をつれてきた。

琴吹「別に井上が出るっていったから来たんじゃないからね。遠子先輩に誘われたからだからね。」

心葉「うん、わかっているよ。」

琴吹「ふん。」

あいかわらずよくわからない。琴吹さんは・・・。

竹田「心葉先輩おひさしぶりです。」

心葉「竹田さんおひさしぶりだね。」

竹田「はい。」

竹田さんと話していると、琴吹さんがものすごい形相でこちらを見ていた。

竹田「琴吹先輩怖いです。」

琴吹「怖くないし、そんな顔もしていない。」

竹田「えゝしてますよ。」

琴吹「していない。あと、竹田は井上に近すぎすぎ。」

竹田「そんなにしてませんよ。」

琴吹「井上が迷惑していたらどうするのよ。」

心葉「そんなに迷惑にはなっていないんだけど。」

琴吹「そんなこといつてない。」

やっぱりよくわからない琴吹さんは・・。

すると、遠子先輩がいきなり。

遠子「大会メンバーは決まったわね。」

といった。てか、芥川君がDMやっているのは知っていたけど、琴吹さんや竹田さんもやっているなんて、さすがDMだな。

心葉「で、どこに……。」

遠子先輩に聞こうとしたらいきなり、キンコーンカーコンと放送が始まり、文芸部の部長と副部長は姫のアトリエに来てくださいますという放送が入ったので、僕は聞けなかった。

第1章 文学少女チーム結成（後書き）

本日の最強カード

遠子「今日の最強カードは・・・『ラーの翼神竜』よ。なんと、効果が3種類もあるモンスターよ。でも、特殊召喚のときでしか発動しない効果もあるから、どっちで出すかはあなたしだわ。でも特殊召喚したらそのターンで、墓地に送ることも忘れないように、きよ付けないといけないわ。」

心葉「それでも強いですし。」

遠子「それにしても、心葉君どうして、OCG版のこのカードは弱いのかしら？」

心葉「強いからです。」

遠子「そうかしら。」

心葉（使ってみてわからない、遠子先輩って何なんでしょう。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4902v/>

“文学少女”と科学と魔術とSOS団が交差する決闘者たち

2011年10月9日08時11分発行